

# A Logical Analysis of the Semantic Orientation of Attributives in Mandarin Chinese

LIU yanlan

Keywords: attributives, semantic orientation, formal semantics, propositional logic, predicate logic

## Abstract

An attributive is the pre-modifier in a modifier-noun structure. Its important role in the transmission of semantic information endows the study of attributives, from the aspect of semantic orientation, with great significance. Based on previous studies, this study explores the nuances of the semantic orientation of Chinese attributives. It categorizes them into direct and indirect semantic orientations. The goal is to reveal Chinese attributives' logical structures, in terms of their semantic orientation, by applying formal semantic concepts such as propositional logic and predicate logic, to concrete sentence examples.



# 現代中国語の限定語の 意味指示と論理分析

劉 燕 嵐

キーワード：限定語、意味指示、形式論理学

## 0. はじめに

「意味指示」理論は 80 年代に生まれた現代中国語の独特的な言語分析理論であり、文法研究、特に意味に関する研究の発展に伴い、ますます重視され、中国語の意味分析に非常に役立っている。本稿では、現代中国語における限定語を意味指示分析の立場から再検討する。

例えば、“宽敞的房间「広い部屋」”と“快乐的星期天「楽しい日曜日」”という二つの例がある。この二つの例にある限定語“宽敞「広い」”と“快乐「楽しい」”はいったいどのような文成分を意味指示するか、この疑問を解明するために、命題論理および述語論理の手法を用いて、限定語の意味指示に関する論理構造を記述し、その意味を明晰化する。

## 1. 意味指示とは何か

1980 年代以来、意味指示は意味分析方法の一つとして、すでに中国語文法学界に認められ、幅広く応用されている。意味指示の定義に関しては、

諸説がある。主なものは以下の五つある。

胡裕树、范晓（1992）は「意味指示というのは、文中の語が意味上支配するあるいは説明する方法である」(p.275)と定義している。

卢英顺（1995）は「意味指示は意味に関する研究内容である。……意味指示とは統語構造のある成分が意味上他の成分（一つあるいはいくつかの成分）と結合する可能性のことである。」(p.22)と定義している。

王红旗（1997）は「意味指示とは、文の同じ統語位置にある同様な文法的性質を持つ語が他の統語成分との間に意味関係を生ずる現象である。これは統語成分の意味関係が文法関係と不対応になる現象である。」(p.73)というように定義をしている。

周剛（1998）は「意味指示というのは、文中のある成分が文中あるいは文外の一つ或いはいくつかの成分と意味上直接的に関連することである。……言い換えれば、意味指示は主に統語上の非直接成分の間に発生した意味上の直接関係を考察する」(p.27)と定義している。

上に述べた各定義には少し差異があるが、伝える意味は大体同じである。本稿では、以上の観点に基づき、「意味指示」を「文中における一つの文成分が意味上文中或いは文外の他の成分と直接に関わる」というように捉えることとする。

## 2. 現代中国語の限定語の意味指示に関する先行研究

### 2.1 限定語の意味指示の種類に関する先行研究

#### 2.1.1 峻峽（1990）による研究

峻峽（1990：109-116）は限定語を「直接修飾限定語（直接中心語を修飾する限定語である。たとえば、“红布”、“宽敞的房间” の “红”、“宽敞”など）」と「間接修飾限定語（中心語を直接的に修飾せず、文中或いは文

外のほかの成分を通して間接的に中心語を修飾する限定語である。たとえば、“快乐的星期天” の “快乐”)」の二種に分けた。その上で、峻峽は間接修飾限定語を次のような六種類に分類し、全面的に説明した。

- ①指向主语（主語を指示する）
- ②指向主语的定语（主語の限定語を指示する）
- ③指向介词或动词的宾语（前置詞或いは動詞の目的語を指示する）
- ④指向中心语的另一个定语（中心語のほかの限定語を指示する）
- ⑤指向中心语的另一个定语中的某一名词性词语（中心語のほかの限定語にある名詞性成分を指示する）
- ⑥指向句外（文外の成分を指示する）

また、意味、構造、中心語の特徴などの面から間接修飾限定語の構成と使用に関する条件を分析した。

### 2.1.2 邵敬敏（2007）による研究

邵敬敏（2007：233）は限定語の意味指示を三種類に分類した。

- ①指向中心语（中心語を意味指示する）。たとえば、

(1) 我要好好地逛一逛美丽的西湖。(私はよくきれいな西湖を遊覧する。)<sup>(注1)</sup> (邵敬敏 2007：233)

- ②指向主语（主語を意味指示する）。たとえば、

(2) 我过了一个愉快的暑假。(私は愉快な夏休みを過ごした。)  
(邵敬敏 2007：233)

- ③指向述语（述語を意味指示する）。たとえば、

(3) 陈小平看了一天的书。(陳小平は一日中本を読んでいた。)  
(邵敬敏 2007：233)

## 2.2 限定語の意味指示の判定に関する先行研究

### 2.2.1 王金鑫（2004）による研究

王金鑫（2004）は感情形容詞の意味指示について詳しく論じている。その中で、感情形容詞が限定語になる場合、その意味指示の対象をどのように判定するかについて、次のような規則を提示した。

「感情形容詞が限定語になる場合、統語上に距離の一番近い人間を指示する成分を意味指示する。もし感情形容詞に修飾される中心語が人間を指す語句であれば、感情形容詞がその中心語を意味指示する」と指摘している。

それに対して、中心語は人間を指す語句でなければ、他の成分を意味指示する。この場合、「もし、一つの統語構造にいくつかの人間を指す他の成分があれば、統語上の距離の遠近によって、意味指示の対象を判定する」と述べている。

### 2.2.2 蔣靜忠（2008）による研究

蔣靜忠（2008）は、「従来の研究は個人の語感で意味指示の対象を判定しているが、語感の個人差によって異なる結論を出すことがある。また、語感が不確定なものであるので、検証することが難しい。したがって、語感で意味指示の対象を判定することは科学的ではない」と指摘している。その上、形容詞限定語の意味指示の対象を判定する三つの規則を提出している。

- A. 意味特徴一致規則：形容詞限定語はその意味指示の対象と意味特徴が一致する。
- B. 優先順位規則：形容詞限定語は優先的に統語上の修飾対象を意味指示する。
- C. 動作主語優先規則：形容詞限定語は優先的に動詞の動作主語を

意味指示する。

この三つの規則は「A → B → C」の順序で使用する。

### 2.3 本稿の捉え方

現代中国語において、統語関係と意味関係が対応しない状況がしばしば見られる。一つの文の構造的形式と意味の間に複雑な関係が隠されている。中国語の母語話者は語感で各文成分の間の意味関係を判定することができるが、外国人中国語学習者にとっては、統語関係と意味関係が一致する場合は理解しやすいが、一致しない場合はなかなか理解できない。「意味指示」という分析方法は統語構造の裏に隠される意味関係を明らかにすることができるので、中国語教育に有用な価値があると考えられる。

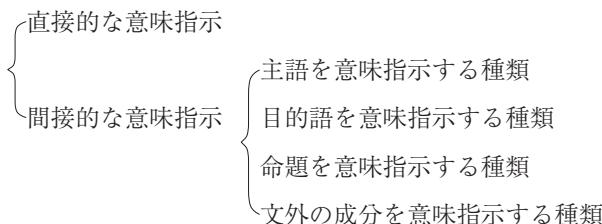
従来の研究は主に現代中国語の限定語の意味指示の類型についてまとめて分析し、限定語の意味指示の原則と方法を提出したが、大部分の研究は個人の語感で意味指示の対象を判定するため、語感の個人差によって異なる結論を出すことがある。また、語感が不確定なものであるので、検証することが難しい。

したがって、本稿は形式意味論の方法を導入し、論理式を用いて限定語と他の文成分の間の意味関係を明示することによって、母語話者の語感を科学的、論理的に判定する方法を求める。外国人中国語学習者がこの方法を使い、正確に限定語の意味指示の対象を判定できることを目的とする。

考察する時に、峻嶢（1990）で述べた「②指向主语的定语（主語の限定語を指示する）、④指向中心语的另一个定语（中心語のほかの限定語を指示する）と⑤指向中心语的另一个定语中的某一名词性词语（中心語のほかの限定語にある名詞性成分を指示する）」の三つの種類は一つの文に多重の限定語があるので、本稿はこの三つの種類を研究対象から取り除くことにする。

また、邵敬敏（2007）によれば、“陈小平看了一天的书” の例にある限定語“一天”は述語“看”を意味指示すると述べているが、本稿は論理式を運用する形式意味論の立場から、限定語“一天”は“陈小平看书”という命題を意味指示するというふうに捉えることにする。

したがって、本稿では峻嶢（1990）と邵敬敏（2007）の研究を参考し、現代中国語の限定語の意味指示を次の〈図1〉のように分類して考察しておこう。



〈図1：本稿による現代中国語の限定語の意味指示の分類〉

そして、意味指示の対象を判定することについては、王金鑫（2004）と蔣静忠（2008）の提出したいくつかの規則を総合に運用し、意味指示の対象を判定することにする。

### 3. 現代中国語の限定語の意味指示と論理分析

これまで、現代中国語における意味指示の研究は主に状況語、補語と副詞の研究に集中し、多くの重要な文法原則を発見した。それに対して、限定語の意味指示研究はあまり多くなく、今後研究する価値がある。本稿では、従来の限定語の意味指示に関する研究を参考にし、形式意味論の方法を用いて、限定語の意味指示を論理式で示しながら分析する。

### 3.1 限定語の直接的な意味指示と論理分析

峻岐（1990：109）によると、「直接修飾限定語は直接中心語を修飾する限定語である」。この種の限定語は、統語上は中心語を修飾・限定し、中心語と「定中構造」という統語構造を構成する。意味上は中心語を意味指示し、中心語と直接的な意味関係が生じる。この類の限定語はすべての限定語の中によくある一種である。限定語と中心語の間の統語関係と意味関係が互いに対応しているので、「相同意味指示（“语义同指”）」<sup>(注2)</sup>ともいう。例えば、次のような例がある。

(4) 我要好好地逛一逛美丽的西湖。（私はよくきれいな西湖を遊覧する。）

（邵敬敏 2007：233）（(1) の再掲）

(5) 人民经受了严峻的考验。（人民は厳しい試練を受けた。）

（王进安 2005：93）

まず、(4) の例を考察してみよう。(4) の文は、統語関係から見れば、限定語 “美丽” は後ろの中心語 “西湖” を修飾し、「定中構造」という統語構造を構成する。

意味上は、“美丽” は「きれい、美しい」の意を表し、生命を持っている有生物の性質を表すこともできるし、生命を持っていない無生物の性質を表すことができるので、[+性質、±有生性] の意味特徴を持っている。“我” は人称代名詞であり、[+有生性] の意味特徴を持ち、“西湖” は非人間名詞であり、[-有生性] の意味特徴を持っている。

蔣靜忠（2008）の提出した三つの規則に従い、“我” の意味特徴である [+有生性] と “西湖” の意味特徴である [-有生性] は “美丽” の意味特徴である [+性質、±有生性] に含まれているので、“我” と “西湖” は “美丽” と意味特徴が一致し、両方とも “美丽” の意味指示の対象とな

る可能性がある。そして、“西湖”は“美丽”の統語上の修飾対象であるので、“美丽”が優先に“西湖”を意味指示することになる。

次に、形式意味論を用いてこの文を考察してみよう。分析に際しては、便宜を図って、文中の限定語に関する部分“我逛美丽的西湖”的みを取り出し論理式で表記することにする。この文には、“我逛西湖”（私は西湖を遊覧する）という命題内容と“西湖美丽”（西湖がきれいである）という命題内容の二つの命題内容が含まれている。第一の命題を述語論理で表すと、“逛”（我，西湖）になる。これは、「遊覧する」という他動詞を関数“逛”とし、“我”と“西湖”を項とする2項関数である。第二の命題を述語論理で表すと、“美丽”（西湖）となる。これは、「きれい」という形容詞を関数“美丽”とし、“西湖”を項とする1項関数である。この二つの命題をすべて含む文全体の論理式は次の（4-①）になる。

(4-①) 逛’（我，西湖） & 美丽’（西湖）

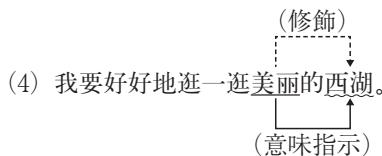
遊覧スル ～ガ ～ヲ 綺麗デアル ～ガ

この論理式は「私が西湖を遊覧する、かつ、西湖がきれいである」と読む。ここでは、第一命題の“逛”関数の第二項“西湖”が第二命題“美丽”（西湖）の項になっているので、演繹モデルを構成し、この二項の間には連鎖関係<sup>(注3)</sup>がみられる。

この論理式を見ると、限定語“美丽”が関数となり、中心語“西湖”がこの関数の項となり、直接第二命題の“美丽”（西湖）を構成するので、限定語“美丽”が中心語“西湖”を意味指示し、直接な意味関係を持つことを明示している。

以上の説明によると、限定語“美丽”と中心語“西湖”的間に、統語関係と意味関係が互いに対応していることがわかる。この統語関係と意味関係は

次の〈図2〉のように表示できる。(「→」は意味関係を表す。「……→」は統語関係を表す。)



〈図2：“我要好好地逛一逛美丽的西湖” の統語関係と意味関係〉

続いて、(5) の例について考えてみよう。この文も上記と同じような解釈が可能である。統語関係から考えると、形容詞“严峻”は後ろの名動詞“考验”を修飾し、「定中構造」を構成し、“严峻”は“考验”的直接修飾成分となる。

意味上から考えると、“严峻”は「厳しい、重大だ」の意を表し、情勢・事態・方式などを記述するので、[−有生性] の意味特徴を持っている。“人民”は人間を表す名詞であり、[+有生性] の意味特徴を持ち、“严峻”的意味特徴と一致していない。“考验”は非人間名詞であり、[−有生性] の意味特徴を持ち、“严峻”的意味特徴と一致している。その結果、限定語“严峻”は中心語“考验”を意味指示し、直接的な意味関係を構成する。

次に、(5) の文を論理式で表記し分析する。便宜を図って“人民经受严峻的考验”に簡略して考察を進めることにする。この文は、“人民经受考验”（人民は試練を受ける）と“考验严峻”（試練が厳しい）の二つの命題を含んでいる。第一の命題を述語論理で表記すると、“经受”（人民、考验）になる。これは、「受ける」という他動詞を関数“经受”とし、“人民”と“考验”を項とする2項関数である。第二の命題を述語論理で表す

と、“严峻’(考验)”となる。これは、「厳しい」という形容詞を関数“严峻”とし、“考验”を項とする1項関数である。さらに、命題論理で連言の論理結合子をつけると、次の(5-①)になる。

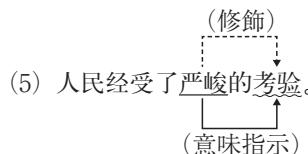
(5-①) 经受’(人民, 考验) & 严峻’(考验)

ウケル ~ガ ~ヲ キビシイ ~ガ

この論理式は「人民が試練を受ける、かつ、試練が厳しい」と読む。この論理式で、第一命題の“经受’(人民, 考验)”の第二項“考验”が第二命題“严峻’(考验)”の項になっているので、演繹モデルを構成し、またこの二項の間には連鎖関係が存在する。

この論理式を見ると、限定語“严峻”が関数となり、中心語“考验”がこの関数の項となる。“考验”が第二命題“严峻’(考验)”の項“考验”と連鎖関係を構成する。つまり、限定語“严峻”が中心語“考验”を意味指示し、直接な意味関係を持つことが明示されている。

従って、限定語“严峻”は中心語“考验”的統語関係と意味関係が互いに対応しているので、次の〈図3〉のように表示できる。



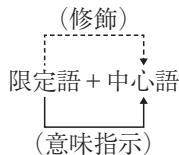
〈図3：“人民经受了严峻的考验”の統語関係と意味関係〉

この種類の「定中構造」において、中心語が名詞であろうと名動詞であろうと、限定語は後ろの中心語を修飾し、直接成分関係となる。

また、論理式を考察すると、限定語が関数 “ $X'$ ” となり、中心語がその関数の項 “ $a$ ” になり、直接的に次の (6) のような一つの命題を構成することができる。

(6)  $X' (a)$

(6) から限定語は中心語を意味指示し、直接的な意味関係を持つことがわかる。したがって、この種類の限定語は、統語面でも、意味面でも、いずれも直接な関係をもっているので、統語関係と意味関係が互いに対応している。本稿はこのような限定語の意味指示を「直接的な意味指示」と呼ぶことにする。図で示すと次のようになる。



〈図 4：限定語の直接的な意味指示の統語関係と意味関係〉

### 3.2 限定語の間接的な意味指示と論理分析

前節において、統語関係と意味関係が互いに対応している限定語の直接的な意味指示を検討したが、次のような場合もある。たとえば、

(7) 我过了一个愉快的暑假。(私は愉快な夏休みを過した。)

((2) の再掲)

(8) 他做了一个惬意的梦。(彼は心地よい夢を見た。)

(邵敬敏 2007 : 233)

統語関係は、これらの文の限定語“愉快”、“惬意”が後ろの中心語“暑假”、“夢”を修飾し、「定中構造」を構成し、直接成分関係となる。意味関係は、限定語は中心語以外のほかの成分を意味指示し、意味関係を構成している。統語関係と意味関係が対応せず、それが発生している。このような意味指示を「相違意味指示（“語義異指”）」<sup>(注4)</sup>とも呼んでいる。ここでは意味指示の対象がどのような文成分になるかにより、次のいくつかの種類に分けて論じる。

### 3.2.1 主語を意味指示する種類

本節では、「命題論理」と「述語論理」を用いて、限定語を含む文の意味構造を論理式で示し、限定語が意味上主語を意味指示することを考察する。まず、(7)の文を見てみよう。

(7) の文の形容詞“愉快”は、統語構造から見れば、中心語の“暑假”を修飾し、「定中構造」を構成している。“愉快”は“暑假”的直接修飾成分となる。

しかし、“愉快”は「楽しく気持ちよい」という人間の感情・感覚などを表す感情形容詞であり、[+感情、+有生性]の意味特徴を持っている。“我”は人称代名詞であり、[+感情、+有生性]の意味特徴を持ち、“暑假”は非人間名詞であり、[-感情、-有生性]の意味特徴を持っている。

“暑假”的意味特徴は“愉快”的意味特徴と一致していない。“我”的意味特徴は“愉快”的意味特徴と一致している。その結果、限定語“愉快”はこの文の主語である“我”を意味指示し、直接的な意味関係を構成する。

次に、(7)の文を形式意味論の技法を用いて考察してみよう。(7)の命題表現には次の(7a)と(7b)の二つの命題内容が含まれている。

(7a) 我过了一个暑假。（私は夏休みを過ごした。）

(7b) 我在暑假愉快。(私は夏休みに愉快である。)

この二つの命題内容にある“暑假”は違う格役割を演じている。(7a)では“暑假”は“过”的[対格]であり、(7b)では“暑假”は“我愉快”的[位格]である。(7a)は顕在的な命題内容であり、(7b)は潜在的な命題内容である。

(7a) の命題内容は、“我过暑假”（私が夏休みを過す），“暑假有一个”（夏休みが一つある）の二つの命題表現を含んでいる。第一の命題表現を述語論理で表すと「过’（我，暑假）」となる。これは、「過す」という動詞を関数“过”とし、“我”と“暑假”を項とする2項関数である。第二の命題表現を述語論理で表すと“有’（暑假，一个）”となる。これは、「ある」という動詞を関数“有”とし、“暑假”と“一个”を項とする2項関数である。この二つの命題を単純に連言の論理結合子によって結合すると“过’（我，暑假） & 有’（暑假，一个）”になる。

(7b) は潜在的な命題内容で、(7a) の顕在的な命題内容と共に起している。つまり、「私は夏休みを過す」という行為と同時に、「私は夏休みに愉快である」という事態が存在している。しかし、“过’（我，暑假） & 有’（暑假，一个）”の論理式では、“我”と“愉快”的関係が示されていない。この関係を明示するには、(7a) と (7b) を含む文の論理式を“在”関数“在’（ $\alpha$ ， $\beta$ ， $\gamma$ ）”として捉えることにすればよい。“在”構文は三つの項をとる三項述語である。第三項には関数の値が代入され、全体で二つの個体と一つの複合命題の関係を表す。この関数の項の $\alpha$ と $\beta$ は個体で、 $\gamma$ は命題である。 $\alpha$ 項には“我”が入り、 $\beta$ 項には“暑假”が入ると、次のような式になる。

(7-①) 在' (我, 暑假,  $\gamma$ )

アル ~ガ ~ニ ~トイウ状態ニ

$\gamma$  項は複合命題である。 $\gamma$  項に含まれる命題をすべて表記すると以下のようになる。

(7-②)  $\gamma$  項の論理式 :

スゴス ~ガ ~ヲ	アル ~ガ ヒツ	タル ~ガ ~ニ ユカイダ ~ガ	
过' (我, 暑假)	& 有' (暑假, 一个)	& 到' (一个, 我) & 愉快' (我)	
$\gamma 1$	$\gamma 2 ①$	$\gamma 2 ②$	$\gamma 2 ③$
(格役割)	(量化 1)	(量化 2)	(量化 3)
[動作]	[時相 1]	[時相 2]	[時相 3]

スル ~ガ [完了] ヲ

& 有' {愉快' (我), 了}

$\gamma 3$

(着点)

[時態]

上記の式 (7-②) の  $\gamma$  項の最初の命題には命題表現「私が夏休みを過ごす」を表す論理式  $\gamma 1$  “过' (我, 暑假)” が生起する。「私が夏休みを過ごす」は動作であり、“我” が「動作主」を“暑假” が「対格」の格役割を持つことを表している。続く命題表現「夏休みが一つある」を表す論理式は  $\gamma 2 ①$  “有' (暑假, 一个)” である。第三は命題表現「その一つが私に至る」で、その論理式は  $\gamma 2 ②$  で “到' (一个, 我)” になる。第四は命題表現「私が愉快である」で、論理式は  $\gamma 2 ③$  “愉快' (我)” である。第二から第四の命題は“暑假”的量“一个”とそれにかかる対象“我”とそ

の精神活動“愉快”を決定するので、(数)量化と考えることができる。第五の命題表現「私は愉快だった」は量化されたできごとを参照時間軸上に配置するので、[着点]となり、 $\gamma_3$  “有” {愉快’(我), 了}”となる。このように $\gamma$ 項の $\gamma_1$ には[格役割]が、 $\gamma_2$ には[時相]が、 $\gamma_3$ には[時態]が現れる。 $\gamma$ 項の式を(7-①)の式に代入し、(7)の文全体の意味構造を表すと、論理式は以下のように書ける。

(7-③) 在’〔我, 暑假, 过’(我, 暑假) & 有’(暑假, 一个) &

アル ~ガ ~ニ

$\alpha \quad \beta$

到’(一个, 我) & 愉快’(我) & 有’{愉快’(我), 了}〕

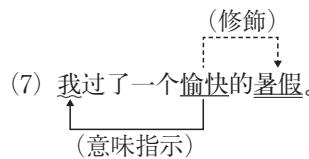
～トイウ状態ニ

$\gamma$

この論理式は、「私が夏休みに、私が夏休みを過す、かつ、夏休みが一つある、かつ、一つが私に至る、かつ、私が愉快である、かつ、私が愉快であることが〔完了〕をするという状態にある」と読む。

$\gamma$ 項は連言で結ばれた複合命題であり、連鎖関係を持っている。(7-③)の論理式中では、「“暑假”と“暑假”」、「“一个”と“一个”」、「“我”と“我”」が連鎖し、最後に「“愉快’(我)”と“愉快’(我)”」の間に連鎖関係が存在しているので、全体として一つのできごとを表す。

(7-③)の“愉快’(我)”( $\gamma_2\gamma_3$ )は命題表現「私が愉快である」を表すことから、“愉快”は“我”を意味指示していることがわかる。したがって、(7)の文の限定語に関する統語関係と意味関係を表示すると次の〈図5〉になる。



〈図5：“我过了一个愉快的暑假” の統語関係と意味関係〉

この図から、限定語“愉快”は“暑假”を修飾し、直接統語成分関係を構成しているが、意味上は文中にある主語“我”を意味指示し、直接的な意味関係を構成している。統語関係と意味関係の間にずれが生じていることがわかる。

次に、(8) の文を見てみよう。(8) の文の形容詞“惬意”は後ろの中心語“梦”を修飾し、「定中構造」を構成し、直接統語成分関係となる。

しかし、“惬意”は「気持ちがよい、心地よい、満足する」の意味を表し、人の心理感情・感覚を表す形容詞であり、[+感情、+有生性]の意味特徴を持っている。“梦”は非人間名詞であり、[-感情、-有生性]の意味特徴を有し、“惬意”的意味特徴と一致していない。一方、“他”は人称代名詞であり、[+感情、+有生性]の意味特徴を持ち、“惬意”的意味特徴と一致している。その結果、限定語“惬意”はこの文の主語である“他”を意味指示し、直接的な意味関係を構成する。

続いて、(8) の例を形式意味論の方法を使用して考察してみよう。(8) の例は (7) の例と同様に二つの命題内容を含んでいる。

(8a) 他做了一个梦。(彼は夢を見た。)

(8b) 他在梦里惬意。(彼は夢に心地よい。)

この二つの命題内容にある“梦”は二つの格役割を果たしている。(8a)

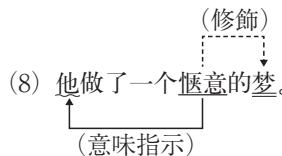
では“梦”は“做”的〔対格〕であり、(8b)では“梦”は“我惬意”的〔位格〕である。(8a)は顯在的な命題内容であるのに対し、(8b)は潜在的な命題内容である。

(8b)は潜在的な命題内容で、(8a)の顯在的な命題内容と共に起している。つまり、「彼は夢を見る」と同時に、「彼は夢に心地よい」という事態が存在している。この関係を明示するために、この二つの命題内容を含む論理式は次のように書ける。

$$\begin{array}{c}
 \text{ミル} \sim \text{ガ} \sim \gamma \quad \text{アル} \sim \text{ガ} \text{ ヒツ} \quad \text{イタル} \sim \text{ガ} \sim \gamma \\
 (8-①) \text{ 在' [他, 梦, 做' (他, 梦) \& 有' (梦, 一个) \& 到' (一个, 他)} \\
 \text{アル} \sim \text{ガ} \sim \gamma \\
 \alpha \quad \beta \\
 \text{ココチヨイ} \sim \text{ガ} \text{ スル} \quad \sim \text{ガ} \quad [\text{完了}] \gamma \\
 \& \text{惬意' (他) \& 有' {惬意' (他), 了}] \\
 & \sim \text{トイク状態} \gamma \\
 & \gamma
 \end{array}$$

この論理式は「彼が夢に、彼が夢を見る、かつ、夢が一つある、かつ、一つが彼に至る、かつ、彼が心地よい、かつ、彼が心地よいことが〔完了〕をするという状態にある」と読む。 $\gamma$ 項は連言で結ばれた複合命題であり、連鎖関係を持っているので、全体が一つの文の意味を表示できる。

(8-①)の論理式の中で、 $\gamma$  2 ③の“惬意’(他)”は「彼が心地よい」という潜在的な命題内容を示すことから、限定語の“惬意”は主語の“他”を意味指示することがわかる。そこで、(8)の文の統語関係と意味関係を図で示すと、次のようになる。



〈図6：“他做了一个惬意的梦” の統語関係と意味関係〉

この図から、限定語“惬意”は統語上“梦”を修飾し、直接成分関係を構成しているが、意味上は文中にある主語“他”を意味指示し、直接的な意味関係を構成している。統語関係と意味関係が互いに対応しない、ということがわかる。

### 3.2.2 目的語を意味指示する種類

峻峡（1990）によれば、意味指示される目的語は前置詞の目的語と動詞の目的語の二つのタイプがある。例えば、

- (9) 等着吧，学校一定会给你们一个最满意的答复。

(待っていなさい。学校側は必ず君たちに最も満足な返事を与える。) (峻峡 1990：113)

- (10) 它都就马上应合着，给祥子以最顺心的帮助。

(そのものはすぐに応じて、祥子に最も気に入る助けをあげる。)

(老舍《骆驼祥子》峻峡 1990：113 引用例)

この二つの例は動詞の目的語に関する例である。朱徳熙（1982）によると、一つの動詞の後に二つの目的語が連なって現れるものを二重目的語という。二重目的語のうちで動詞に近い方の目的語を近置目的語と呼び、動詞から遠い方の目的語を遠置目的語と呼ぶ。授与の意味を表す二重目的語

構造では、近置目的語が受け取り手を示し、遠置目的語が授与物を示す。  
 (pp. 117-118)

二重目的語構造のある文において、遠置目的語を修飾する限定語が人間の感情、精神、動作などとかかわる。つまり [+有生] の意味特徴を有する場合、その限定語は意味上近置目的語を意味指示する。

まず、(9) の例を考察してみよう。論議の便宜を図って (9) の文を “学校给你们一个满意的答复” に簡略し、分析を進めることにする。

統語関係の視点から考察すれば、形容詞 “满意” は後ろの “答复” を修飾し、「定中構造」をなすので、“满意” は “答复” の限定語と呼ばれる。

しかし、意味上から考えると、“满意” は「満足、納得する」の意味で、人間の心理感情を表すので、[+感情、+有生性] の意味特徴を有している。中心語となる “答复” は人間ではないので、[-感情、-有生性] の意味特徴を持っている。

“满意” と “答复” の意味特徴が一致していないので、“答复” が “满意” の意味指示の対象となることができなくなる。一方、近置目的語の “你们” が人称代名詞であり、[+有生性] の意味特徴を持っているので、“你们” が “满意” の意味特徴と一致している。その結果、限定語 “满意” は近置目的語 “你们” を意味指示する。

次に、形式意味論の演繹的視点から (9) の文を考察する。(9) の命題表現には二つの命題内容が含まれている。

(9a) 学校给你们一个答复。(学校側が君たちに返事を与える)

(9b) 你们满意。(君たちは満足である。)

(9a) は顕在的な命題内容であり、二重目的語を有する “給” 構文である。“給” 構文は「～が～に～を与える」と意味解釈することができ、三

項関数と捉える。すると、(9a) の文の論理式は次のように書ける。

アタエ ~ガ ~ヲ アル ~ガ ヒツ イタル ~ガ ~ニ  
 (9a-①) 給' {学校, 你们, 给'(学校, 答复) & 有'(答复, 一个) & 到'(一个, 你们)}  
 スル ~ガ ~ニ ~コトヲ

さらに、(9b) は潜在的な命題内容であり、(9a) の顯在的な命題内容とともに発生している。つまり、「学校側が君たちに返事を与える」という事態と同時に、「君たちは（この返事に対し）満足である」という事態も存在し、ともに (9) の命題表現を構成する。しかし、(9a-①) の論理式では、(9b) の命題内容が表示されていない。この潜在的な命題内容を明示すると、次の論理式になる。

(9-①) 給' {学校, 你们, 给'(学校, 答复) & 有'(答复, 一个) & 到'(一个, 你们)}  
 スル ~ガ ~ニ  
 満足スル ~ガ  
 & 満意'(你们)}  
 ~コトヲ

この論理式は「学校が、君たちに、学校が返事を与え、かつ、返事が一つあり、かつ、一つが君たちにいたり、かつ、君たちが満足である、ことをする」と読める。そこで、この式の“給” 関数の各項をそれぞれ  $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$  とし、さらに  $\gamma$  を下位区分して  $\gamma_1$ 、 $\gamma_2$  ①、 $\gamma_2$  ②、 $\gamma_3$  として、それぞれの果たしている役割を考えてみよう。

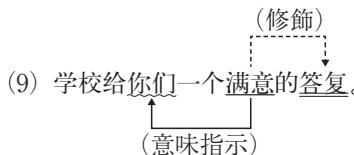
(9-②) 给' {学校, 你们, 给'(学校, 答复) & 有'(答复, 一个) & 到'(一个, 你们)

$\gamma 1$	$\gamma 2 ①$	$\gamma 2 ②$
(格役割)	(量化 1)	(量化 2)
[動作]	[時相 1]	[時相 2]
$\alpha \quad \beta$		
& 满意' (你们)}		
$\gamma 3$		
(着点)		
[時態]		
$\gamma$		

ここでは、 $\gamma$  の部分が文の意味を構成する複合命題を表し、 $\alpha$  と  $\beta$  はその中から抽出された文中の役割を表す成分である。ここで  $\gamma 1$ 、 $\gamma 2$ 、 $\gamma 3$  が何を表しているかを述べる。 $\gamma 1$  は“学校”と“答复”が「動作主」と「対象格」という関係にあることを表している。つまり  $\gamma 1$  は「格役割」を表す。 $\gamma 2 ①$  は「対象格」「答复」の数量を“一个”に決定する（数）量化の役を果たし、 $\gamma 2 ②$  は「対象格」「一个」が“你们”に至るという動作“给”の終息を表し、「量化」（時相）と捉えられる。その結果  $\gamma 3$  は“你们”が“満意”という感情を持つことを表し、結果事態であり、命題全体の「着点」を表す。 $\alpha$  の“学校”、 $\beta$  の“你们”は  $\gamma$  から抽出されているので、それぞれ話題、副話題となる。

上記の式では、 $\gamma 1$  の第二項が  $\gamma 2 ①$  の第一項に生起し、 $\gamma 2 ①$  の第二項が  $\gamma 2 ②$  の第一項に生起し、 $\gamma 2 ②$  の第二項が  $\gamma 3$  の第一項に生起するというように、四つの命題が連鎖しているので命題が生起する順序が維持される。この連鎖により、ある現実世界（可能世界）において  $\gamma 1$ ～ $\gamma 3$  が同時に成立することが保証される。

(9-①) の論理式の中で、γ3の“満意”（你们）”は「君たちが満足である」という潜在的な命題内容を示すことから、限定語の“満意”は近置目的語“你们”を意味指示することがわかる。すると、(9) の文の統語関係と意味関係を図で示すと、次のようになる。



〈図 7：“学校给你们一个满意的答复” の統語関係と意味関係〉

この図は、限定語“満意”は統語上“答复”を修飾し、直接成分関係を構成しているが、意味上は述語“给”的近置目的語“你们”を意味指示し、直接的な意味関係を構成している。このことから、統語関係と意味関係が互いに対応しないことがわかる。

次に(10)の例を見てみよう。便宜を図り、(10)の全文を“它给祥子顺心的帮助”に簡略して考察することにする。統語構造から考えると、形容詞“顺心”は後ろの“帮助”を修飾し、「定中構造」を構成するので、“顺心”は“帮助”的限定語となる。

しかし、意味上から考えれば、“顺心”は「気に入る、満足する」の意味であり、人間の感情を表すので、[+感情、+有生性]の意味特徴を備え、人間を表す語だけと意味関係を構成できる。中心語“帮助”は非人間の語であるので、[-感情、-有生性]の意味特徴を持ち、“顺心”を感じる主体となることができない。“帮助”と“顺心”的意味特徴が一致していないので、“帮助”が“顺心”的意味指示の対象になることができない。

一方、主語の“它”と近置目的語の“祥子”的両者とも [+有生性] の

意味特徴をもち、“順心”の意味特徴と一致しているが、統語上の距離から考えると、“祥子”が“順心”と一番近い。その結果、限定語“順心”は近置目的語“祥子”を意味指示する。

次に、形式意味論の視点から演繹的手法で考察する。(10) の命題表現は次の二つの命題内容を含む。

- (10a) 它給祥子帮助。(そのものが祥子に助けを与える。)  
 (10b) 祥子(感到)順心。(祥子は気に入る。)

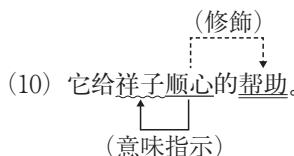
(9) の例と同様に、(10b) は潜在的な命題内容であり、(10a) は顯在的な命題内容である。この二つの命題内容が同時に存在している。つまり、「そのものが祥子に助けを与える」とともに、「祥子は(この助けに対し)気に入る」という事態が発生し、ともに(10) の命題表現を構成している。この二つの命題内容を明示すると、次の論理式になる。

$$\begin{array}{c}
 \text{アタエ} \sim\text{ガ} \sim\forall \quad \text{イタル} \sim\text{ガ} \sim\exists \quad \text{キニイル} \sim\text{ガ} \\
 (10-①) \text{給' } \{\text{它, 祥子, 給' (它, 帮助) \& 到' (帮助, 祥子) \& 順心' (祥子)\} \\
 \text{スル} \sim\text{ガ} \sim\exists \qquad \qquad \qquad \sim\text{コト}\forall \\
 \alpha \qquad \beta \qquad \qquad \qquad \gamma \\
 \gamma 1 \qquad \qquad \qquad \gamma 2 \qquad \qquad \qquad \gamma 3 \\
 (\text{格役割}) \qquad \qquad \qquad (\text{量化}) \qquad \qquad \qquad (\text{着点}) \\
 [\text{動作}] \qquad \qquad \qquad [\text{時相}] \qquad \qquad \qquad [\text{時態}] \\
 \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \gamma
 \end{array}$$

上記の式では、 $\gamma 1$  の第二項が  $\gamma 2$  の第一項に生起し、 $\gamma 2$  の第二項が  $\gamma 3$  の第一項に生起するというように、三つの命題が連鎖しているので命題が生起する順序が維持される。この連鎖により、一つの文の意味を表示

できる。

(10-①) の論理式の中で、 $\gamma_3$ の“順心”(祥子)は「祥子が気に入る」という潜在的な命題内容を示すことから、限定語の“順心”は近置目的語“祥子”を意味指示することがわかる。(10)の文の統語関係と意味関係を図で示すと、次のようになる。



〈図8：“它给祥子顺心的帮助”的統語関係と意味関係〉

この図は、限定語“順心”は統語上“帮助”を修飾し、直接成分関係を構成しているが、意味上は述語“給”的近置目的語“祥子”を意味指示し、直接的な意味関係を構成していることを示す。統語関係と意味関係が互いに対応しないことがわかる。

また、前置詞の目的語を意味指示する例として、峻峽(1990)は次の例を挙げている。

(11) 道静一边擦着眼泪一边说，“所以(父亲)给我取了这么个讨厌的名字。”

(道静が涙を拭きながら、「だから（父）は私にこんな嫌な名前を付けてくれた」と言った。)

(杨沫《青春之歌》峻峽 1990：113引用例)

ここで、“(父亲)给我取讨厌的名字”に簡略して考察することにする。統語構造から考えると、形容詞“讨厌”は後ろの“名字”を修飾し、「定

中構造」を構成するので、「討厭」は「名字」の限定語となる。

しかし、意味上から考えれば、「討厭」は「嫌い、好きではない」という人間の感情を表すので、〔+感情、+有生性〕の意味特徴を備え、人間を表す語だけと意味関係を構成できる。中心語「名字」は非人間を表す名詞であるので、〔-感情、-有生性〕の意味特徴を持ち、「討厭」を感じる主体となることができない。「討厭」と「名字」の意味特徴が一致していないので、「討厭」が「名字」を意味指示することができない。

一方、主語の「父亲」と前置詞の目的語の「我」が人間を指す名詞であり、両方とも〔+有生性〕の意味特徴を持っているので、「討厭」の意味特徴と一致しているが。統語上の距離から考えると、「我」が「討厭」と一番近い。その結果、限定語「討厭」は近置目的語「我」を意味指示する。

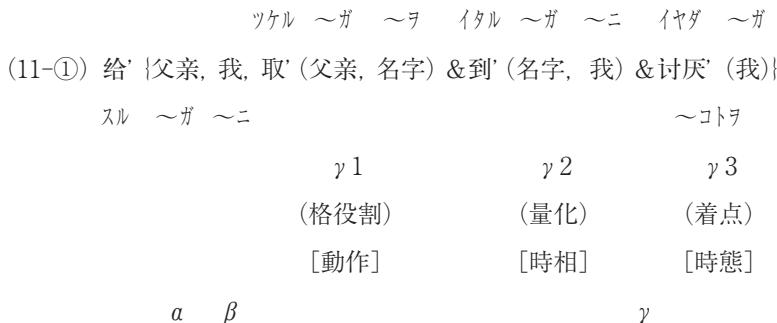
この文は前置詞「給」により構成され、「我」は前置詞の目的語である。限定語「討厭」は中心語「名字」と直接の意味関係を持たず、前置詞の目的語「我」と直接の意味関係を持っている。つまり、限定語「討厭」は前置詞の目的語「我」を意味指示する。

この例も（9）と（10）の例と同じような解釈ができる。（11）の命題表現は次の二つの命題内容を含んでいる。

（11a）（父亲）给我取名字。（父が私に名前を付けてくれる。）

（11b）我（感到）讨厌。（私が嫌だ。）

（11a）は顕在的な命題内容であり、（11b）は潜在的な命題内容である。二つの命題を明示するために、次の論理式で示す。



上記の式では、 $\gamma 1$  の第二項が  $\gamma 2$  の第一項に生起し、 $\gamma 2$  の第二項が  $\gamma 3$  の第一項に生起するというように、三つの命題が連鎖しているので命題が生起する順序が維持される。この連鎖により、一つの文の意味を表示できる。

(11-①) の論理式の中で、 $\gamma 3$  の“讨厌”(我)は「私が嫌だ」という潜在的な命題内容を示すことから、限定語の“讨厌”は前置詞の目的語“我”を意味指示することがわかる。(11) の例の統語関係と意味関係を図で示すと、次のようになる。



〈図9：“(父亲) 给我取讨厌的名字”的統語関係と意味関係〉

この図は、限定語“讨厌”は統語上“名字”を修飾し、直接成分関係を構成しているが、意味上は前置詞“给”的目的語“我”を意味指示し、直接的な意味関係を構成していることを示す。

### 3.2.3 命題を意味指示する種類

邵敬敏（2007）は限定語の意味指示について、次のような例を挙げた。

(12) 陈小平看了一天的书。(陳小平は一日中本を読んでいた。)

((3) の再掲)

(13) 孙静在家等了一上午的电话。(孫静は家で午前中に電話を待っていた。)

(邵敬敏 2007 : 233)

邵敬敏は(12)の文を“陈小平看书+看了一天”に変換し、(13)の文を“孙静在家等电话+等了一上午”に変換することができるので、限定語になる“一天”“一上午”が述語の“看”“等”を意味指示すると考えている。本節では、邵敬敏（2007）で挙げているこの二つの文を論理式を用いて詳しく論じることにする。

まず、(12)の文を考察する。(12)の文を統語構造からみると、時間量詞“一天”は後ろの名詞“书”を修飾し、「定中構造」を構成するので、“一天”は“书”的限定語となる。

一方、意味関係から考えるならば、限定語になる“一天”は瞬間性を表す時間量詞ではなくて、一定の時間量を持つ持続性を表す時間量詞であるので、[+持続]の意味特徴を有する。しかし、中心語“书”は持続性を持っていない具体名詞であるので、[-持続]の意味特徴を備えている。したがって、限定語“一天”と中心語“书”的間に統語的には修飾と被修飾のような関係を持っているが、直接の意味関係は持っていない。なお、“一天”は一定の時間量を持っていて、動作・行為などの持続時間を表すので、(12)の文では“看书”という動作の持続する時間を表し、直接の意味関係を構成する。つまり、限定語“一天”は動作“看书”を意味指示する。

続いて形式意味論の演繹的視点から改めて（12）の文を考察する。（12）の命題表現には次の二つの命題内容が含まれる。

(12a) 陈小平看书。(陳小平が本を読む。)

(12b) 陈小平看书看了一天。(陳小平が本を読むことが一日である。)

(12a) は顕在的な命題内容であり、述語論理で表記すると、「読む」という他動詞を関数“看”とし、“陈小平”と“书”を項とする二項関数である。論理式は次の（12a-①）になる。

(12a-①) 看' (陈小平, 书)

ヨム ~ガ ~ヲ

しかし、(12a-①) の論理式では(12b) の潜在的な命題内容が表示されていない。この命題内容を明示するために、まず次のメタ言語付きの論理式で表示する。

ヨム ~ガ ~ヲ ナル ~ガ ~ニ スル

(12-①) 看' (陈小平, 书) & 到' {看' (陈小平, 书), 一天} & 有' [到'  
~ガ [完了] ヲ  
{看' (陈小平, 书), 一天}, 了]

(12) の文を中国語に即して考えると、まず「陳小平が本を読む」という単純命題が構成され、それは“看' (陈小平, 书)”で表記される。次にこの命題が“一天”と組み合わされる。“看”が「開始を表す動詞」で“一天”が「終息を表す成分（時間）」である。意味は少し不自然であるが、

「陳小平が本を読むことが一日になる」という複合命題が成立する。この複合命題は“到’{看’(陈小平,书),一天}”と表される。ここまでで「本を読む」という「動作の時間量」が決定され、時間に至ると肉体的動きがゼロになるので数量化が行われて、時相が決定する。最後に「陳小平が本を読むことが一日になる」という動作が参照時間点において「完了」をするので、これは“有’[到’{看’(陈小平,书),一天}],了]”という複合命題で表記される。これらの命題内容はこの順に同時に成立しなければならないので、連言の論理結合子で結合すると次の論理式になる。 $\gamma_1$ が格役割、 $\gamma_2$ が量化、 $\gamma_3$ が着点を表示している。

(12-②) 看' (陈小平, 书) &到' {看' (陈小平, 书), 一天} &有' [到'

$\gamma$  1                                     $\gamma$  2

(格役割) (量化)

〔動作〕 〔時相〕

{看' (陈小平, 书), 一天}, 了]

γ 3

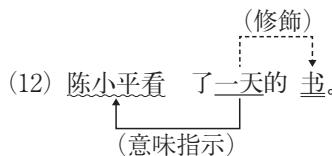
(着点)

「時態」

この論理式は「陳小平が本を読む、かつ、陳小平が本を読むことが一日になる、かつ陳小平が本を読むことが一日になることが〔完了〕をする」と読む。(12-②) の論理式では  $\gamma_1$  が  $\gamma_2$  の第一項に生起し、 $\gamma_2$  が  $\gamma_3$  の第一項に生起するというように連鎖しているので、全体として一つのできごとを表す。

(12-②) の論理式の  $\gamma_2$  から、限定語の “一天” と命題 “陈小平看书” の間に直接の意味関係が存在していることがわかる。すなわち、“一天”

は命題 “陈小平看书” を意味指示する。(12) の文の統語関係と意味関係を図で示すと、次のようになる。



〈図 10：“陈小平看了一天的书”的統語関係と意味関係〉

この図は、限定語 “一天” は統語上中心語 “书” を修飾し、直接成分関係を構成しているが、意味上は命題 “陈小平看书” を意味指示し、直接的な意味関係を構成していて、統語関係と意味関係が対応しないことを示している。

次に、(13) の文を考えてみよう。統語構造を考えると、時間量詞 “一上午” は名詞 “电话” を修飾し、「定中構造」を構成するので、統語的には “一上午” と “电话” は限定語と中心語の関係になる。

しかしながら、意味の面から考察すると、“一上午” は持続性を持っている時間量詞であり、[+持続] の意味特徴があるので、通常持続性を持つほかの文成分と直接の意味関係を構成することが求められる。一方、中心語の “电话” は持続性を持っていない具体名詞であるので、「-持続」の意味特徴がある。その結果、限定語 “一上午” と中心語 “电话” の間に統語関係は存在しているが、直接の意味関係は構成することができない。(13) の文では、“等电话” という持続できる動作が存在する。この動作の持続する時間を表して、直接の意味関係を構成することは可能である。すなわち、限定語 “一上午” は動作 “等电话” を意味指示する。

(12) の文と同様に、(13) の文の必要な部分を取出して分析すると、

(13) の命題表現は次の二つの命題内容を含んでいる。

(13a) 孫靜等電話。(孫靜が電話を待つ。)

(13b) 孫靜等電話等了一上午。(孫靜が電話を待つことが午前中になる。)

(13a) は顕在的な命題内容であり、(13b) は潜在的な命題内容である。二つの命題を明示するために、次の論理式で示す。

マツ ~ガ ~ヲ ナル ~ガ ~ニ スル

(13-①) 等' (孙靜, 电话) & 到' {等' (孙靜, 电话), 一上午} & 有'

$\gamma 1$

$\gamma 2$

(格役割)

(量化)

[動作]

[時相]

~ガ

[完了] ヲ

[到' {等' (孙靜, 电话), 一上午}, 了]

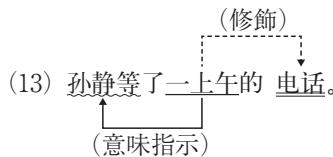
$\gamma 3$

(着点)

[時態]

これは (13) の例の論理式となる。この論理式は「孫靜が電話を待つ、かつ、孫靜が電話を待つことが午前中になる、かつ、孫靜が電話を待つことが午前中になることが [完了] をする」と読む。この論理式の  $\gamma 2$  から、限定語の“一上午”と命題“孙靜等电话”的間に直接の意味関係があることがわかる。つまり、“一上午”は“孙靜等电话”という命題内容を意味

指示する。(13) の文の統語関係と意味関係を図で示すと、次のようになる。



〈図 11：“孙静等了一上午的电话” の統語関係と意味関係〉

この図は、限定語になる時間量詞“一上午”は統語上中心語の“电话”と「修飾と被修飾」の関係を構成しているが、意味上は“孙静等电话”という命題内容を意味指示し、直接的な意味関係を構成していて、統語関係と意味関係が対応しないことを示している。

### 3.2.4 文外の成分を意味指示する種類

次に、文外の成分を意味指示する状況を論理式で明示しながら考察を進めていく。まず、(14) の文を見てみよう。

(14) 那是一个幸福的雨夜。(あれはある幸福な雨の夜であった。)

(张炜《美妙雨夜》朱华丽 2009 : 27 引用例)

(14) の文の形容詞“幸福”は、文の統語構造から考察すると、後ろの中心語“雨夜”を修飾し、「定中構造」を構成しているので、“幸福”は“雨夜”的直接修飾成分となる。

一方、“幸福”は「心が満ち足りて、不平や不満がなく、満足や幸せ」という人間の心理感情を表す形容詞であるので、[+感情、+有生性]の意味特徴を備えている。それに対し、中心語“雨夜”は非人間の対象を表

す名詞であるので、[－感情、－有生性] の意味特徴を持っている。さらに、主語“那”は指示代名詞であり、この文において、“雨夜”を指示するので、“雨夜”と同じように [－感情、－有生性] の意味特徴を持っている。意味上から考えれば、“幸福”は人間の感情を表す形容詞であるので、人を表す成分以外のものと結合できない。すなわち、“雨夜”も“那”も“幸福”のような感情を感じることができずに、文脈にある誰かがこの“幸福”を感じることになる。その結果、限定語“幸福”は後ろの中心語“雨夜”とも、前の主語“那”とも直接の意味関係を持たず、文外に隠された「幸福」の感情を持つ人間と直接の意味関係を持つことになる。具体的にどんな人間と直接の意味関係を持つかは、この文の前後の文脈による理解しかない。つまり、“幸福”は(14)の文外にある「幸福の感情」を持つ人間を意味指示することになる。

次に、論理式を用いて、(14)の文の意味構造を分析する。(14)の命題表現は、以下の二つの命題内容を含んでいる。

- (14a) 那是一个雨夜。(あれはある雨の夜である。)
- (14b) (u) 在雨夜幸福。((誰か) が雨の夜に幸福である。)

この二つの命題内容にある“雨夜”は異なる格役割を果たしている。(14a)では“雨夜”は“是”的[対格]であり、(14b)では“雨夜”は“(u) 幸福”的[位格]である。(14a)は顯在的な命題内容であり、(14b)は潜在的な命題内容である。

(14a)の命題内容に含まれる意味は、“那是雨夜”（あれが雨の夜である）と“雨夜有一个”（雨の夜が一つある）の二つの命題表現に分解される。“那是雨夜”的命題表現を論理式で記述すると、“是’(那, 雨夜)”となる。これは、動詞“是”を関数“是”とし、“那”と“雨夜”を項とす

る2項関数である。“雨夜有一个”的命題表現を論理式で記述すると“有”(雨夜, 一个)と表記できる。これは、「ある」という動詞を関数“有”とし、“雨夜”と“一个”を項とする2項関数である。この二つの命題を連言「&」で結ぶと“是’(那, 雨夜) & 有’(雨夜, 一个)”になる。これは(14a)の論理式である。

(14b)は潜在的な命題内容であり、(14a)の顯在的な命題内容と共に起している。つまり、「あれはある雨の夜である」という事態があると同時に、「誰かが雨の夜に幸せになる」という事態も存在している。しかし、“是’(那, 雨夜) & 有’(雨夜, 一个)”の式では、(14a)の顯在的な命題内容を示しているのに、“u”と“幸福”的関係が示されていない。この関係を明示的に表示するために、(14a)と(14b)をともに含む文の論理式を“在”関数“在’( $\alpha$ ,  $\beta$ ,  $\gamma$ )”を使って表記することにする。この関数の項の $\alpha$ と $\beta$ は個体で、 $\gamma$ は命題である。 $\alpha$ 項に“u”が入り、 $\beta$ 項に“雨夜”が入ると、次のような式になる。

(14-①) 在’(u, 雨夜,  $\gamma$ )

アル ～ガ ～ニ ～トイウ状態ニ

$\gamma$ 項は複合命題であり、含まれる命題をすべて表記すると次の(14-②)になる。

アル ～ガ ～デ      アル ～ガ ヒツ      イタル ～ガ ～ニ コウフク ～ガ  
 (14-②) 是’(那, 雨夜) & 有’(雨夜, 一个) & 到’(一个, u) & 幸福’(u)  
 $\gamma$ 1                   $\gamma$ 2 ①                   $\gamma$ 2 ②                   $\gamma$ 3  
 (格役割)              (量化 1)              (量化 2)              (着点)  
 [判断]                  [時相 1]              [時相 2]              [時態]

(14-②) はまず命題表現「あれは雨の夜である」の論理式 “是” (那, 雨夜)” が生起し、“是” (那, 雨夜)” は “是” が “那” と “雨夜” の格関係を述べているのでこれを  $\gamma_1$  と呼ぶことにする。次の命題表現「雨の夜が一つある」を表す論理式 “有” (雨夜, 一个)” と命題表現「その一つが誰かに至る」を表す論理式 “到” (一个, u)” は、“雨夜” の数量 “一个” とそれにかかる対象 “u” を決定するので量化関係を表し、それぞれ  $\gamma_2$  ①、 $\gamma_2$  ②と呼ぶ。最後に生起している命題 “幸福” (u)” は「誰かが幸福である」という意味を表し、参照時間軸上にある結果事態であり、 $\gamma_3$  と呼ぶ。このように  $\gamma$  項の  $\gamma_1$  には [格役割] が、 $\gamma_2$  には [時相] が、 $\gamma_3$  には [着点] が現れる。 $\gamma$  項の式を (14-①) の式に代入し、(14) の文全体の意味構造を表すと、論理式は以下のように書ける。

(14-③) 在’ {u, 雨夜, 是’ (那, 雨夜) & 有’ (雨夜, 一个) & 到’ (一个, u)

アル～ガ ～ニ

$\alpha \quad \beta$

& 幸福’ (u)}

～トイウ状態ニ

$\gamma$

この論理式は「u が雨の夜に、あれが雨の夜である、かつ、雨の夜が一つある、かつ、一つが u に至る、かつ、u が幸福であるという状態にある」と読む。 $\gamma$  項は連言で結ばれた複合命題であり、連鎖関係が存在している。(14-③) の論理式中では、先行する命題の第二項とそれに続く命題の第一項 「“雨夜” と “雨夜”」、「“一个” と “一个”」、「“u” と “u”」が連鎖しているので、全体として一つの文を表すことができる。

(14-③) の論理式の中で、 $\gamma_2$  ③の “幸福” (u)” は「(u) が幸福であ

る」という潜在的な命題内容を示すことから、限定語の“幸福”は文外にある主語の“(u)”を意味指示することがわかる。そこで、(14) の文の統語関係と意味関係を図で示すと、次のようなになる。文外にある「誰か」という「不確定」な意味を持つ人物を定項「u」で表記する。



〈図 12：“那是一个幸福的雨夜” の統語関係と意味関係〉

この図は、限定語“幸福”が統語上“雨夜”を修飾し、直接成分関係を構成しているが、意味上は文外にある主語“(u)”を意味指示し、直接的な意味関係を構成している。統語関係と意味関係が互いに対応しないことを示している。

もう一つの例を見られたい。

(15) 店内外充满了快活的空气。(店の内と外はうれしい雾囲気に充ちていた。) (鲁迅《孔乙己》朱华丽 2009: 27 引用例)

(15) の文の形容詞“快活”は、統語構造を考察するに当たっては、後ろの中心語“空气”を修飾し、「定中構造」を構成しているので、“快活”は“空气”的限定語となる。

だが、“快活”は「うれしい、楽しい、愉快」など人間の心理感情を表すので、[+感情、+有生性]の意味特徴を有する。それに対し、中心語“空气”は人間ではないので、[-感情、-有生性]の意味特徴を持ってい

る。また、主語“店内外”も非人間の名詞であるので、[－感情、－有生性]の意味特徴を有している。意味上から考えると、“快活”は人間の感情を表すので、人を表す成分以外のものと結合することができない。つまり、主語“店内外”と中心語“空气”的両方とも“快活”を感じることができない。この店の内と外にいる誰かが“快活”という感情を持つことができる。従って、限定語“快活”は文頭の主語“店内外”とも、後ろの中心語“空气”とも直接の意味関係を持たず、文外に隠された“快活”という感情を持つ人間と直接の意味関係を持つことになる。限定語となる“快活”は(15)の文外にある「うれしい」という感情を持つ主語を意味指示する。

次に、論理式を用いて、(15)の文を考察してみよう。(15)の命題表現には、下記の二つの命題内容が含まれている。

- (15a) 店内外充满了空气。(店の内と外はある雰囲気に充ちている。)
- (15b) (u) 在空气里快活。((誰か) が雰囲気の中で楽しい。)

この二つの命題内容にある“空气”は異なる格役割を果たしている。(15a)では“空气”は“充满”的〔対格〕であり、(15b)では“空气”は“(u) 快活”的〔位格〕である。(15a)は顯在的な命題内容であり、(15b)は潜在的な命題内容である。

(15a)の文は“店内外有空气”(店の内と外に雰囲気がある)という命題内容と、“空气满”(雰囲気がいっぱいである)という命題内容の二つの命題内容を意味表記に含まねばならないので、“充’(店内外, 空气) & 满’(空气)”のように表記できる。

そして、「店の内と外はある雰囲気に充ちている」という事態があると同時に、「(誰か) がこの雰囲気の中で楽しい」という事態も存在している。

しかし、“充’（店内外，空气）&満’（空气）”の式では、(15b) の中の “u” と “快活” の間の関係が示されていない。この関係を明示的に表示するためには、“在” 関数 “在’(α, β, γ)” を用いて、次のように表記すればよい。

(15-①) 在’(u, 空气, γ)

アル ～ガ ～ニ ～トイウ状態ニ

γ 項は複合命題であり、含まれる命題をすべて表記すると次の (15-②) になる。

アル ～ニ ～ガ ミチル ～ガ イタル ～ガ ～ニ

(15-②) 充’（店内外，空气）&満’（空气）&到’{満’（空气），快活’（u）}  
ウレシイ ～ガ

γ 1

γ 2 ①

γ 2 ②

(格役割)

(量化 1)

(量化 2)

[動作]

[時相 1]

[時相 2]

スル ～ガ [完了] ヲ

&有’{快活’（u），了}

γ 3

(着点)

[時態]

この式の γ の項を詳しく解釈すると、まず “充’（店内外，空气）” は “充” が “店内外” と “空气” の格役割を述べているのでこれを γ 1 と呼

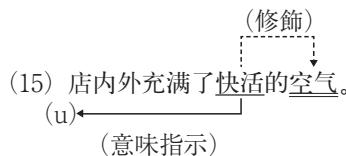
ぶことにする。次の“満”(空气) & 到”{満”(空气), 快活’(u)}”は、“空气”的数量“満”とそれにかかる対象“u”とその心理感情“快活”を決定するので量化関係を表し、それぞれ $\gamma_2①$ 、 $\gamma_2②$ と呼ぶ。最後に格役割、量化関係が決定された出来事を仮想の参照時間軸上に配置して、文全体の意味が決まる。これを表すのが“有”{快活’(u), 了}”であるが、これを $\gamma_3$ として〔着点〕と名付ける。このように $\gamma$ 項の $\gamma_1$ には〔格役割〕が、 $\gamma_2$ には〔時相〕が、 $\gamma_3$ には〔時態〕が現れる。 $\gamma$ 項の式を(15-①)の式に代入し、(15)の文全体の意味構造を表すと、次の(15-③)ができる。

(15-③) 在’[u, 空气, 充’(店内外, 空气)&満’(空气)&到”{満”(空气),  
 アル ~ガ ~ニ  
 a β  
 快活’(u)} & 有”{快活’(u), 了}]  
 ~トイウ状態ニ  
 γ

この論理式は「uが雰囲気において、店の内と外に雰囲気があり、かつ、雰囲気が満ち、かつ、雰囲気が満ちることがuがうれしいことに至り、かつ、uがうれしいことが〔完了〕をするという状態にある」と読む。 $\gamma$ 項は連言で結ばれた複合命題であり、連鎖関係が存在している。(15-③)の論理式中では、「“空气”と“空气”」、「“満”(空气)”と“満”(空气)”」、「“快活’(u)”と“快活’(u)”」の間に連鎖関係があるので、全体として一つのできごとを表す。

(15-③) の論理式の中で、 $\gamma_2②$ の“快活’(u)”は「(u)がうれしい」という潜在的な命題内容を示すことから、限定語の“快活”は文外にある

主語の“(u)”を意味指示することがわかる。すると、(15)の文の統語関係と意味関係は次のようになる。



〈図 13：“店内外充满了快活的空气”の統語関係と意味関係〉

この図は、限定語“快活”は統語上“空气”を修飾し、直接成分関係を構成しているが、意味上は文外にある主語“(u)”を意味指示し、直接的な意味関係を構成している。統語関係と意味関係が互いに対応しないことを示している。

### 3.2.5 まとめ

本節では、「主語を意味指示する種類」「目的語を意味指示する種類」「命題を意味指示する限定語」「文外の成分を意味指示する種類」の四種類に分けて考察した。この四種類の限定語は統語面において、後ろの中心語を修飾し、「定中構造」を構成するが、意味上は、限定語と中心語の間に直接の意味関係は存在しなくて、他の文成分を意味指示する。本稿はこの種類の限定語の意味指示を「間接的な意味指示」と呼ぶことにする。

## 4. 本稿の結び

従来の現代中国語の限定語の意味指示に関する研究は、限定語の意味指示の原則と方法を提出したが、ほとんどの研究は個人の語感により意味指

示の対象を判定するので、語感の個人差によって異なる結論を出すことがある。また、語感が不確定なものであるので、検証することが難しい。したがって、本稿は形式意味論の方法を導入し、論理式を用いて限定語と他の文成分の間の意味関係を明示することによって、意味指示の対象を科学的かつ論理的に判定した。

本稿では、現代中国語の限定語の意味指示について統語的、意味的分析を試みた。限定語の意味指示に関する様々な文の意味構造を考察した結果、中国語の限定語の意味指示は、直接的な意味指示と間接的な意味指示の二種に分けられるという結論を得た。

限定語の直接的な意味指示については、統語上、限定語が中心語を修飾し、直接成分関係となる。また、意味上、論理式によって、限定語と中心語は “X’ (a)” のような一つの命題を構成することができる（限定語が関数 “X” となり、中心語がその関数の項 “a” になる）ので、限定語は中心語を意味指示し、直接的な意味関係を持つことが証明された。

一方、限定語の間接的な意味指示については、論理式によって、いずれの種類も、限定語は直接に中心語と一つの命題を構成せず、文のほかの成分と命題を構成し、連鎖関係により中心語と間接的に関わることがわかった。

## 注

- 1) 本稿における例文に対する日本語訳は特別明示しない限りすべて筆者訳である。
- 2) 張国宪 (1991: pp. 13-16) は、「統語上直接成分関係を持ち、また、意味上も直接関連を持っている状況を“语义同指”（相同意味指示）と呼ぶ。」と述べている。
- 3) 松村文芳 (2017: pp. 47-48) は、「命題 A と命題 B が連言の論理結合子で結ばれる時、命題 A の末尾の項が命題 B の第一項と同一の場合、命題 A を命題 B に先行させ、このような技法を演繹モデルと呼ぶ。また命題 A の末尾の項と命題 B の第一項との間には連鎖関係があるということにする。」と述べている。

4) 张国宪(1991: pp. 13-16)は、「我々は統語上直接成分関係を持っているが、意味上直接成分の間に関わりを持たず、非直接成分としか直接的な関係を持たない状況を“语义异指”（相違意味指示）と呼ぶ。」と述べている。

## 参考文献

### 〈中国語文献〉

- 丁凌云 1999. 〈定语语义指向分析〉, 《安徽教育学院学报》(哲学社会科学版)。1999年第2期
- 胡裕树、文炼 1982. 〈句子分析漫谈〉, 《中国语文》。1982年第3期
- 胡裕树、范晓 1985. 〈试论语法研究的三个平面〉, 《新疆师范大学学报》。1985年第2期
- 范晓、胡裕树 1992. 〈有关语法研究三个平面的几个问题〉, 《中国语文》。1992年第4期
- 蒋静忠 2008. 〈形容词定语的语义指向与判定方法〉, 《汉语学报》。2008年第1期
- 峻峡 1990. 〈间接修饰定语试探〉, 《河北大学学报》。1990年第1期
- 陆俭明 1980. 〈汉语口语句法里的易位现象〉, 《中国语文》。1980年第1期
- 陆俭明 1996. 〈关于语义指向分析〉, 《当代中国语言学》。1996年总第1期
- 陆俭明 2005. 《现代汉语语法研究教程》(第三版)。北京:北京大学出版社
- 卢英顺 1995. 〈语义指向研究漫谈〉, 《世界汉语教学》。1995年第3期
- 邵敬敏编 2007. 《现代汉语通论》。上海:上海教育出版社
- 王红旗 1997. 〈论语义指向分析产生的原因〉, 《山东师范大学学报》。1997年第1期
- 王金鑫 2004. 《情感形容词语义指向研究》, 现代汉语语法学术讨论会。2004年11月10日
- 王进安 2005. 〈定语的语义指向及表述功能的差异〉, 《集美大学学报(哲学社会科学版)》。2005年第4期
- 文炼 1960. 〈论语法学中“形式和意义相结合”的原则〉, 《上海师范学院学报》。1960年第2期
- 周刚 1998. 〈语义指向分析刍议〉, 《语文研究》。1998年第3期
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》。北京:商务印书馆。
- 赵世举 2001. 〈定语的语义指向试探〉, 《襄樊学院学报》。2001年第1期

### 〈日本語文献〉

- 杉村孝司 1998. 『意味論1—形式意味論—』。東京:くろしお出版
- 松村文芳 2017. 『現代中国語の意味論序説』。東京:ひつじ書房